

20023

心臓CT施行時の高心拍患者に対するコアベータ倍量投与の検討

¹名古屋徳洲会総合病院、²名古屋徳洲会総合病院

森田 理史¹、檜物 大輔¹、早川 政志¹、村松 世規¹、亀谷 良介²

【目的】心臓CT撮像の際、良好な画像を得るために撮影時の患者心拍を低下させることは大切である。また、昨年心臓CT施行時の心拍低下目的の静注薬（ランジオロール）が承認され、心臓CT撮像時の心拍低下の有効性・安全性の報告が散見されている。しかし、比較的高頻拍（心拍80bpm以上）の場合、ランジオロール通常使用の場合、至適心拍（65bpm）が得られにくいことも報告されている。そこで、今回我々は、心臓CT施行時の心拍が80bpmの場合、ランジオロールの倍量投与を行い、その有効性、安全性を評価した。【方法】対象は、2012年4月1日～6月30日の心臓CT施行の際心拍80bpm以上であった連続症例。本症例にはランジオロールを規定の倍量投与した（ランジオロール倍量投与群）。また、対照群として、2012年1月1日～3月31日の心臓CT施行の際心拍80bpm以上であった連続症例（ランジオロール通常投与群）とした。ランジオロール通常投与群のランジオロール投与前の心拍は、 87.4 ± 9.3 bpmであり、ランジオロール倍量投与後の心拍は、 78.6 ± 13.0 bpmであった。ランジオロール倍量投与群のランジオロール投与前の心拍は、 84.3 ± 5.9 bpmであり、ランジオロール倍量投与後の心拍は、 70.7 ± 9.2 bpmであった。血圧に関しては、両投与群はいずれも過度の血圧低下を認めなかった。【結語】心拍80bpm以上の心臓CT施行患者さんのランジオロール倍量投与は、通常投与に比べより心拍を低下させたが、低血圧などの合併症は認めなかった。